

令和8年度第1回長岡京市部活動地域展開検討委員会

1 日 時

令和8年7月2日（木）午後6時～8時

2 場 所

長岡京市役所 本庁舎 会議室801

3 出席者（順不同、敬称略）

委 員 中村 和雄、大島 嘉人、中澤 大蔵、小國 俊之、森 昌彦、田中 進
小山 慎也

ゲストスピーカー 長岡京市バレーボール協会 田中理事、長岡京市バレーボール
協会 山東会長

欠席委員 なし

事務局 教育長 西村 文則、教育部長 中島 早苗
教育部次長兼文化・スポーツ振興課長 宮崎 隆弘、
学校教育課長 渡邊 まどか、
学校教育課総括指導主事 影山 佑樹、学校教育課指導主事 安池 美希子、
学校教育課学校教育指導主事 縄手 健也、
スポーツ振興係長 鈴木 忠範、文化振興係長 木村 映美、
文化・スポーツ振興課学校教育主事兼部活動地域展開コーディネーター 川上 雅範、
スポーツ振興係主事 三宅 智也、スポーツ振興係主事 江森 仁耶

傍聴者 1名

4 内 容

1 開会

(1) あいさつ

2 報告事項

- (1) これまでの経過
- (2) 長岡京市 部活動地域展開ロードマップ
- (3) 令和8年度の取組

3 意見交換

4 その他

5 閉会

5 議事等の内容

1 会長あいさつ

2 報告事項

1 報告事項

(1)～(3)について

事務局より説明。

2 「長岡京ブレイブ」立ち上げについて

ゲストスピーカーより説明。

- ・立ち上げに至った経緯は、長岡京市内に男子バレーボール部が1校にしかなく、他校の生徒は女子バレーボール部に混ざって活動していた。
- ・男子バレーボールのクラブチームを立ち上げようと以前から考えていたところに、市から地域展開の話があり、協力させてもらった。
- ・立ち上げを進めていく中で、指導者、活動頻度、場所の問題があったが、学校の先生に協力してもらい、現在では週に5回活動している。
- ・先生には、指導のみに協力してもらい、事務作業は協会で行っているが人数も少なくバタバタしている。
- ・先生の協力を得られず、指導も運営も地域クラブで行うことになると思うが、ブレイブは先行して平日も活動し、試合にも出場している。
- ・立ち上げにあたって指導者、場所、経費と役割分担をしながら進めた。
- ・指導者は先生に協力してもらい、経費は人脈も使いつつ企業からスポンサーを募った。
- ・スポンサーを募るということは、支援してもらった各企業に会計報告をする必要もあるが、ゆくゆくは場所代や謝礼費などの運営に係る費用を賄えるよう拡大していきたい。
- ・保護者対応については、保護者から指導者へ直接連絡するルートはすべて断ち、一度協会が間に入ってやり取りをしている。
- ・同時に保護者会を立ち上げ、現在はOB会を立ち上げて継続的に支援してもらえるように計画している。

3 意見交換

委員：長岡京ブレイブの部員数は何人いるのか。

ゲスト：現在、中学生は25人、小学生は18人。

委員：活動日はいつなのか。

ゲスト：火、水、木、土、日曜日の週5日活動している。場所と時間については、曜日ごとに固定されており、土日に関しては練習試合をしたり、合同練習をしたりして、長時間活動している。場所については、先生の協力もあって、少

し有利に動いていると感じるが、他のチームも同じようになると難しいと思われる。

委員：指導は先生が行っているのか。

ゲスト：小学生に関しては、教員ではない一般の方が指導しているが、子どもへの指導は教員のほうが質が高いと感じる。平日は学校の先生が、勤務後に指導してくれている。

委員：指導に来てくれている教員はやりたくて指導しているのか。

ゲスト：そうだと思う。

委員：部活動では、3年生は8月頃に引退するが、ブレイブではどのような扱いになるのか。また、続けて所属する3年生は試合に出られるのか。

ゲスト：ブレイブでは、夏の最後の大会が終わった後は、希望があれば続けて所属でき、部費の半額をもらっている。3年生は夏の大会を最後に中学生の大会には出られない。

委員：今はバレーボールという種目で課題の発見と解決をしているが、これからいろんなクラブチームでも出てくると思われる。

委員：資料の地域クラブの認定要件に「活動時間は週11時間程度」と記載されているが、平日も合わせての時間なのか。土日に3時間ずつ、平日2時間を3日活動すると超えてしまう。これは現在から連続して考えるのか、13年度以降の話にして、今は考えないのか。

前回の会議で、地域展開の4つのパターン例を挙げてもらったが、試験的認定地域クラブは、4つのパターンのどれかに当てはめるのか。

教員の勤務時間は17時までだが、教員の仕事は部活動以外にも多くある。この部分を何とかしないと働き方改革は進まないと思うが、現場の声はどうか。

部活動は教員の職務内容に入っているのか。

委員：部活動の顧問をするかは任意なので、顧問をしない教員もいる。顧問をしている教員は部活動が終わった後に仕事をしている。部活動がなければ、その時間を充てられる。

委員：部活動の時間は今まで教員に甘えていた部分。ここを変えないと平日の地域移行は難しいと思う。休日も意欲のある教員の兼職兼業の形を早く決めないといけないのではないか。

運営団体の立ち上げは大事だと思うが、それに教育委員会はどれくらい関わるつもりなのか。

事務局：時間については、すでに部活動は平日2時間までで必ず1日は休み、休日は3時間で土日のどちらか1日のみの活動となっている。認定地域クラブにも同じ基準を適用することになると思う。

委員：長岡京ブレイブの活動は認定要件の活動時間を超える場合もあるようだが、試験的認定地域クラブの候補に挙げることに問題はないのか。実際に試験的認定をする際は、ブレイブが活動時間を合わせるのか、時間の要件を緩和するのかははっきりさせておかないといけないのではないか。試験的認定の候補に挙げられている団体が要件を満たさないといけないのか。キズナは、4つの中学校の部活動が認定クラブになり、そこに援助するというのを頼まれ

ている。キズナが認定クラブになると、現在はキズナから学校へ指導者を派遣している形から、学校の生徒がキズナへ通う形になり、意味が変わってくる。

事務局：そのような形になったとしても、どこが運営するのかが問題になってくる。大元の組織が一つある形でも、各団体の複合組織という形でも成立すると思う。

委員：提案されたルールをもとに、いろいろな意見を聞いて要件をまとめていきたい。各団体の思いはあると思うが、一定のルールに基づいた形になると思う。

事務局：前回の検討委員会で、地域展開の4つのパターン例を挙げたが、キズナは直営型のイメージに近いと思う。ブレイブは拠点校型として先行実施を行ってきたが、現在は自由選択型になってきている。剣道は、複数校合同型で合同稽古を行っている。いずれの形態でも運営主体は必要になってくる。長岡京で、運営主体になりうる団体がいたり、立ち上げる予定があるのかというと、今はわからないが、試行的な取り組みや意見を通じて取り入れていきたい。

委員：試験的認定クラブの候補にある、野球やサッカーの合同チームというのは、学校の先生方から話があったのか。

事務局：部活動でも合同チームで大会に出ている事例もあるので、例として挙げているだけで、先生からの話があったわけではない。先生の意向を聞かずに強引に何かを進めることはしない。

委員：私のイメージは、長岡京モデルを作ることが目標だと思う。ブレイブはその1つ。部活動の捉え方として、学校教育や青少年育成として、多種目、多志向、多世代と、広く緩く受け入れていくべきだと思う。現在、部活動にある種目だけでなく、既存の団体の資源を活用して種目を増やせないか。スポーツ協会や文化協会と協議して、大きな運営団体から中くらいの運営団体、細かい運営団体を整備していかないと難しいと思う。種目の強化が目的ならば民間団体がすでに行っているので、各団体と協議して楽しむことに特化した受け皿を考えていきたい。指導者の資格は厳しすぎないほうがいいが、コンプライアンスはしっかりする必要がある。

委員：子ども自体のクラブへの考え方は色々あるが、強化が目的ならクラブチームに行けばいいと思うかもしれないが費用はかかる。部活動は低額で一律の指導が受けられるので家庭ごとの差が出にくい。費用はかけられなくても高いレベルを目指したい子どももいるので、楽しむことが目的の団体だけが増えてもニーズを把握しきれないのではないか。

委員：色んな受け皿が必要になる。まずは強化目的のチームを作ることが取り組みやすいと思うが、子どもたちが自由に選べるようなチームも必要。でないとスポーツ少年団のような既存の団体を活用できない。13年度をゴールではなく、13年度を新たなスタートとして、だんだんといいものにしてほしい。

委員：4つのパターンを上手く使えば地域展開はできると思う。保護者の立場として、部活動のような家庭の事情に関係なく一定の指導が受けられる活動は残っていてほしい。加えて、クラブチームに通うような選手や、子どもの習い

事に費用をかけられる家庭でも関心を持てるような認定クラブを地域に展開してほしい。また、1つの種目に1つのクラブだと、大会に出られる子どもは数人になってしまうので、大会出場も考慮して認定クラブの数についても将来的には議論してほしい。

委員：教員側の意見として、平日の部活動を残すことに違和感を持つ教員もたくさんいる。京都市が令和10年に平日の部活動も撤廃し、放課後クラブというものができ、活動したい子どもが参加できるようになる。長岡京市の教員の耳にも入ってくるので、長岡京市が平日を残すことに教員は疑問を持っている。

委員：4つのパターン分けは、現場の意向を聞けば今からでもできるのではないか。4つの中学校が、各校で続けたいと言えれば直営型として今までと変更点を少なく実施できるのではないか。4つの中学校が直営型でやりたいと言っても合併するとなったら現場の意向から矛盾することになる。現状ない種目は、市のほうから働きかけないと増やせないのではないか。試験的認定も認定要件を満たさないと認定できないはず。今の団体の活動を修正していくのか、要件を修正していくのか決めないと矛盾が起こる。去年までは、先生の要望を受けながら協力して団体から部活動へ指導者派遣をしてきて、今年も同じでいいと思っていたが、認定クラブになると、部活動から認定クラブへ子どもが来るという、今までと逆になるのではないか。4つの方向性を決めたのなら、現状と当てはめなければ意味がないのではないか。

事務局：認定要件は決定ではなく、例として国が挙げている要件を出している。今後、現場の声を聞きながら柔軟に対応していきたい。

委員：要件はもう確定しないと間に合わないのではないか。

委員：認定要件の活動時間というものは、部活動の時間を想定していると思うが、時間内であれば夜間に活動することも可能なのか。

委員：原則、部活動と同じ時間で活動するように求められている。

委員：部活動の時間に都合が合う人は、定年退職をした方が多くなりそう。そのような人が関わらないと実現が難しい。どこかのクラブが夜間に活動しようとすることは、部活動の役割と意味が変わってくる。地域のチームに任せてしまうとチグハグになってしまうので、市に原則をはっきりと示してほしい。

委員：運営団体を設置することに対して教育委員会は積極的に関与しようとしているのか、少ない関与をしようとしているのか聞きたい。

事務局：具体的な候補の運営団体はないが、任せっきりになる可能性は低い。

4 その他

事務局より説明

5 閉会